

福島第一原子力発電所 2号機

格納容器ベント操作に関する対応状況について

○「3/11 16:36 非常用炉心冷却装置注水不能の判断・通報」以降の活動内容

- ・ 計器類の復旧作業の結果、11日 21:50 に原子炉水位が有効燃料頂部+3400mm であることが判明、水位が維持されている一方、原子炉隔離時冷却系（以下、「RCIC」）の運転状態は不明であった。更に、23:25 には原子炉建屋 2 階にあるドライウェル（以下、「D/W」）圧力計にて、141kPa[abs]であることが判明、ベントが必要となる圧力には至っていなかった。
- ・ 12日 1:30 頃、ベントの実施について内閣総理大臣、経済産業大臣、原子力安全・保安院に申し入れたところ、了解が得られ、本店対策本部より「あらゆる方策で電動弁（以下、「MO 弁」）、AO 弁を動かし、ベントして欲しい。3:00 に経済産業大臣と当社がベントの実施を発表する。発表後にベントすること。」との情報が提供された。
- ・ 12日 2:34、1号機は現場の放射線量が高い一方、2号機は放射線量がなく、現場でのベント弁の操作が可能であることから、2号機を優先することとし、3:00 に実施することとなった。
- ・ 12日 2:55、RCIC の運転が確認できたことから、1号機のベント操作を優先する方向とし、1号機のベント実施に向けた対応を進めるとともに、2号機のパラメータ監視を継続した。

○「3/12 17:30 ベントの準備を開始するよう発電所長指示。」以降の活動内容

【ベント実施に向けた事前準備】

- ・ RCIC による原子炉への注水が継続、D/W 圧力は約 200～300kPa[abs]と安定していたが、いずれベントが必要となることが予想されたことから、3号機と合わせてベントライン構成に向けた検討を開始。現場の放射線量も低かったことから、ラブチャードディスクを除く、ベントに必要な弁を開けておくこととした。
- ・ 12日 0:06 に、1号機の D/W 圧力が 600kPa[abs]を超えている可能性が確認され、ベント実施に向けて具体的な準備が開始された際に、弁の図面を用いて、ベントに必要な弁を手動で開けることが出来るかどうか、治具を取り付けて強制開の状態に出来るかどうかについて検討を実施していた。
- ・ それらの結果及び、配管計装線図、アクシデントマネジメント（以下、「AM」）手順書、1号機のベント操作手順等を基に、ベントに必要な弁の操作方法¹を確

¹ 格納容器（以下、「PCV」）ベント弁（電動弁、以下「MO 弁」）は手動で開操作可能、圧力抑制室（以下、